産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

〝正しいキレイ〟届ける

サティス製薬・山崎智士社長 ㊤

埼玉県で化粧品OEM（相手先ブランド）生産事業を展開している。吉川市に本社と研究所を、三芳町と毛呂山町に工場を置いている。コーポレートビジョンは『キレイのプロフェッショナルとして一人でも多くの女性に、〝正しいキレイ〟を届けたい』だ。

1999年12月に設立した。国内に数百社あると言われる化粧品OEM生産会社の中では後発で、「ユニークなビジネスモデル」と言われている。その理由は二つ。販売チャンネルを通信販売会社に特化していることと、国内の天然素材を化粧品の原料に使用していることだ。

特に販売チャンネルを通信販売に絞った理由は、情報の〝ねじれ〟を生じさせないため。我々は正しい製品を作っているという自負がある。商品に正しい情報を付記してお客さまにお届けしたい。

またコールセンターを経由し、お客さまの声が早く届くというメリットもある。当社から正しい情報を届けて、お客さまからのフィードバックをいただく。この循環を早く回転させるためにも、通信販売がベストだと判断した。

さらに対面販売とは異なり、販売が人に依存しないので、事業の再現性が高い。当社は宣伝・広告も自前で展開しており、取引している化粧品通信販売会社と、宣伝・広告の成功と失敗の経験を共有し、蓄積している。通信販売でいかに消費者に製品の良さを伝えるかという点でノウハウを蓄積していることも強みになっている。

自社ブランドは持たない。消費者のニーズが多様化しているため、一つのブランドにこだわらず、コンパクトな市場に多様なブランドをどんどん投入していく。このようにして結果的に一人でも多くの女性に正しいキレイを届けたいと考えている。

通信販売市場の拡大と、消費者の嗜好（しこう）に応じた製品を提供できていることから、成長を続けている。13年9月期の売上高は約22億円だった。09年からの5年間で約2・5倍に成長した。近年中に新規株式公開（IPO）する計画だ。

ビジネスモデルが特異なら、創業の経緯も変わっている。私がこの業界に入るきっかけは、高校を中退後、化粧品製造会社に就職したことだった。

自社ブランドは持たない…と山崎社長

トップインタビュー

タイに拠点 アジア重視

食品成型機 国内生産で品質重視

レオン自動機・社長（栃木産業人クラブ）　田代 康憲 氏

栃木産業人クラブのレオン自動機は、まんじゅうやクロワッサンなどの自動成型機のパイオニア。2013年に創業50年を迎えた。〝100年企業〟に向けて一歩目を踏み出した田代康憲社長に、海外展開や技術開発などについて聞いた。（栃木・江上佑美子）

◇

―世界115カ国に食品機械を輸出しています。海外市場でも存在感を発揮していますね。

「機械の売上高の約3割は海外市場だ。日本は少子化が進んでおり、海外に重点を置いている。特にアジアでの売上高が増加基調。タイに事務所を設置し、現地の代理店に販売に関する情報を提供している。欧州の展示会出展などを通じ、中東や北アフリカなどからも引き合いがある」

―現在は宇都宮市で機械を製造していますが、生産拠点を海外に置く予定はありますか。

「顧客は品質を重視している。価格競争に勝てる安価な機械を生産するために海外に工場を設けるという考えはない。海外に工場を設けると、部品の調達コストも増加してしまう」

―部品の調達比率は。

「部品の海外調達割合は数%程度。台湾の拠点を通じて見積もりを取った時期もあったが、品質管理が難しいという問題があった」

―製パンの実験工場であり、レストランやスーパーマーケットへの販売も手がける「オレンジベーカリー」を、米国4カ所で運営しています。

「製パン事業で収益を上げている。日本では取引先と競合する可能性があるため、同様の取り組みをするのは難しいが、米国であれば問題ない。当社製の導入を検討している企業を案内して『もうかる』ところを見てもらっている。包あん機のパイオニアとして『買って下さい』と訴えるだけではなく、ノウハウを公開して教習所のように『みせる』ことも大切だ」

―4月に山型食パンの量産機「VR山型食パン自動成形ライン」を発売しました。

「コンビニエンスストアで販売されている食パンなどは高級化が進んでいる。顧客ニーズがどのように変化しているかを捉えて、製品開発に取り組んでいる」

―技術を活用し、食品分野以外の装置を開発する考えはありますか。

「もともと当社はまんじゅう向け機械からチーズハンバーグなどに事業領域を広げていった。当社のレオロジー（流動学）などの強みを生かせると判断できれば、可能性はある」

たしろ・やすのり　70年（昭45）日大生産工卒、同年レオン自動機入社。87年取締役、99年常務、07年レオンUSA取締役、08年レオンアジア取締役、11年社長。栃木県出身、66歳。

小さくても本物

城北サイトウ製作所 品ぞろえ6000アイテム

城北産業人クラブのサイトウ製作所（東京都板橋区、斉藤智義社長、03・3966・7606）は、微小径ドリルやエンドミルなどの精密切削工具「ATOM（アトム）」ブランドの製造販売を手がけている。

製品数は約6000アイテム。充実したラインアップをそろえることにより、顧客ニーズに迅速に対応する。半導体のプリント基板などの超微細加工が要求される分野で、なくてはならないオンリーワン製品の供給を目指している。

1934年に東京都板橋区で金切鋸刃製造会社として産声を上げた。その後、鋸刃の主流が帯鋸に移行してきたことを受け、業態変換を決意。55年に超硬エンドミルやカッターなどの各種超硬工具の製造を開始した。精密機器の小型化に伴い、切削工具の微細化も必要になると判断し、工具の微小径化の開発に取り組んだ。技術力を深耕し、0.02ミリメートルの微小径超硬ドリルを開発している。

「ATOM」ブランドの製品群

09年4月に3代目に就任した斉藤社長は〝社員第一主義〟を掲げ、新製品開発だけではなく、従業員の働く環境の整備にも力を入れている。「中小企業の経営はトップダウンになりがち。しかし、これでは自分で考える力が身に付かなくなってしまう。従業員の自発性を育んでいくような経営をしたい。社員は顧客第一、私は社員第一の二段階で経営を考えている」と意気込む。

トピックス

山形県企業振興公社 企業ガイドブック発刊

山形県内企業の受注獲得へ―。

山形産業人クラブの山形県企業振興公社（山形市、森谷裕一理事長、023・647・0660）は、県内の機械・電子関連を中心とした製造業1257社を紹介する「2014山形県企業ガイドブック＝写真」を発刊した。企業の販路・受注拡大を支援するため、ホームページ「やまがた企業等情報データベース」に登録している企業情報に基づいて4年ぶりに刷新した。

同ガイドブックはA4サイズで、約600ページ。価格は8000円。掲載企業は前回（10年）のガイドブックに比べて27社増えた。「金属製品」「非鉄金属」「生産用機械器具」「業務用機械器具」「輸送用機械器具」「プラスチック製品」「食料品製造」などの業種別に事業所を掲載している。

企業規模をはじめ、加工内容、加工材質、生産品目、主要設備などを把握できる。企業紹介のほか、県内の主要工業団地やインフラなどのデータも盛り込んだ。

県企業振興公社は「前回と同様、今回のガイドブックも評判が良い」（ものづくり振興部）と、県内企業の売り込みに力を注いでいる。県内外の発注企業が参加し、県内の受注企業と商談する取引商談会などでもアピールする。

5―6月の予定

【5　月】

◇**11日（日）大阪産業人クラブ**「第30回競馬を楽しむ会」（京都市伏見区、京都競馬場）

◇**17日（土）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会**「第14回親睦ゴルフ大会＆5月例会」（埼玉県上尾市、大宮ゴルフコース）

◇**19日（月）岐阜産業人クラブ**「2014年度定時総会＆記念講演会『当社の航空機産業への取り組みと海外進出』講師／今井哲夫今井航空機器工業社長」（岐阜市、岐阜グランドホテル）

◇**20日（火）茨城産業人クラブ**「経済講演会『変わり種企業の考え方』講師／酒井眞一郎興研取締役会長、パネルディスカッション『研究開発でイノベーション』パネラー／菊池伯夫茨城製作所社長、友部英一大友製作所社長、辻信行ツジ電子社長　コーディネーター／武者也寸志茨城県工業技術センター長」（茨城県水戸市、水戸京成ホテル）

◇**21日（水）大阪産業人クラブ**「2014年度定時総会＆記念講演会『強い人間になろう』講師／水野彌一京都大学アメリカンフットボール部元監督」（大阪市都島区、太閤園）

◇**27日（火）東京産業人クラブ・東京産学交流会**「5月定例会『日本経済の現状と展望』講師／松村秀樹日本総合研究所調査部主任研究員」（東京都大田区、大田区産業プラザ）

◇**27日（火）名古屋・岐阜産業人クラブ**「OSG八名工場＆グローバルテクノロジーセンター見学会」（愛知県新城市、豊川市）

◇**29日（木）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会**「群馬方面へ工場見学会」（富士重工業、ミツバ）

◇**29日（木）九州・山口産業人クラブ**「2014年度定時総会＆講演会＆交流会」（福岡市博多区、ホテル日航福岡）

【6　月】

◇**5日（木）茨城産業人クラブ女性部会・ローズウーマン会**「『講演会＆工場見学会』講師／諏訪貴子ダイヤ精機社長」（ダイヤ精機）

◇**11日（水）名古屋・岐阜産業人クラブ**「産業技術総合研究所中部センター見学会」（名古屋市守山区）

◇**13日（金）四国産業人クラブ**「2014年度定時総会＆工場見学会」（高知市、宇治電化学工業）

◇**14日（土）四国産業人クラブ**「親睦ゴルフ大会」（高知県南国市、パシフィックゴルフクラブ）

◇**18日（水）滋賀産業人クラブ**「平成26年度定時総会＆記念講演会『文字から読み解く自分と他人の本音と本性』講師／書道師範・筆跡アドバイザーの本山裕子氏」（滋賀県草津市、ホテルボストンプラザ草津）

◇**27日（金）大阪産業人クラブ**「第79回ゴルフ大会」（大阪府交野市、交野カントリー倶楽部）

西海記念賞に大西氏ら

埼玉産業人クラブ 授賞式を開催

埼玉産業人クラブ（増田文治会長＝マスダック社長）は4月23日、浦和ロイヤルパインズホテル（さいたま市浦和区）で「第51回定時総会」を開いた。増田会長は「2月に創立50周年の記念式典を開きました。産学官金のネットワークを利用して具体的な施策を展開することで、埼玉から日本経済を回復させることに貢献したいと思います」とあいさつ。会員ら約130人が出席して2014年度の事業計画案などを審議し、了承された。

総会後、第33回西海記念賞の授賞式を開き、東京製粉機製作所（埼玉県越谷市）の関西営業所営業技術担当の大西克司氏（根岸洋相談役が代理出席）、大槇精機（埼玉県朝霞市）の大町亮介社長（写真左）を表彰した。

同賞は西海図至夫初代会長の寄付金を基に創設し、毎年、創意・工夫・発明考案・技術技能改善に功績を上げた会員企業の従業員らを表彰している。

また懇親会には上田清司埼玉県知事や安藤久佳関東経済産業局長らが駆けつけた。中小企業経営者らと和やかに情報交換した。

埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰

知事賞に飯島氏

埼玉産業人クラブ・埼玉ちゃれんじ

埼玉産業人クラブは4月23日、浦和ロイヤルパインズホテル（さいたま市浦和区）で「埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰」（埼玉県、埼玉りそな銀行、日刊工業新聞社後援）の第10回表彰式を開いた。埼玉県知事賞を受賞したキャステック（加須市）の飯島雷治郎社長や埼玉産業人クラブ会長賞を受賞した後藤精工（さいたま市中央区）の後藤秀隆社長、特別賞を受賞したカネパッケージ（入間市）の金坂良一社長、賛光精機（本庄市）の清水洋社長（代理＝清水崇司会長）、タナカ技研（小鹿野町）の田中俊次社長（代理＝田中弘伶相談役）に表彰盾と記念品が贈られた。会員ら約130人が出席した。

表彰式ではまず受賞者が受賞記念プレゼンテーションを実施。飯島社長は「これからもいろいろな意味でチャレンジを続け、お客さまに必要とされる会社にしたい」と力を込めた。埼玉県の上田清司知事が飯島社長に、埼玉産業人クラブの増田文治会長（マスダック社長）が後藤社長に表彰盾と記念品をそれぞれ贈呈した。金坂社長、清水会長、田中相談役には埼玉りそな銀行の池田一義社長が表彰盾を、日刊工業新聞社の井水治博社長が記念品を贈呈した。

表彰式後の懇親会では受賞者と参加者が交流を深めた。上田知事は「日本企業は技術力、資金力をビジネスに置き換えるパワーが不足している。埼玉県はしっかり、企業と一緒に〝伴走〟したい」と祝辞を述べた。同表彰は埼玉産業人クラブが創設し、県内の中小・ベンチャー企業経営者を鼓舞するのが狙い。審査委員会は県内産学官金融関係者で構成している。

表彰盾を手に笑顔の受賞者ら

新会長に石井氏

「存在感あるクラブに」

大分産業人クラブ

石井会長

大分産業人クラブ（太田清利会長＝ざびえる本舗社長）は4月25日、大分センチュリーホテル（大分市）で「2014年度定時総会＆講演会」を開いた。役員の任期満了に伴う改選で、石井源太副会長（41、デンケン〈大分県由布市〉社長）を新会長に選出した。石井新会長は「存在感ある魅力的なクラブにしたい」と決意表明した。太田会長（68）は名誉会長に就き、「今後もクラブの発展に向けて協力する」とし、バトンを渡した。

総会後、筑水キャニコム（福岡県うきは市）の包行均会長が「ものづくりは演歌だ！義理と人情で超一流のグローバル中小企業を目指す」と題して講演した（写真）。会員らは「草刈機まさお」といった筑水キャニコムのユニークなネーミング戦略に興味津々で、講演会後の意見交換会でも質問が相次いだ。

懇親会では会員同士が活発に意見交換し、新体制での活動に期待を膨らませている様子だった。

ゴルフ大会

原田氏がベスグロ

NITEC埼玉産学交流会

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会（長谷川勉会長＝長谷川鉄工所社長）は3月26日、紫カントリークラブすみれコース（千葉県野田市）で「第59回ゴルフ大会＝写真」を開いた。難しいグリーン設定のためか、スコアを崩す参加者が続出したが、ミック（埼玉県日高市）の原田岳巳社長が89のベスグロで気を吐いた。懇親会では日本工業大学の柳澤章理事長は「心配された天気もなんとか持ちました。自然の中で、大いに交流できた」と笑顔。会員8人が歓談した。

ゴルフ大会

久保氏が優勝

多摩産業人クラブ

多摩産業人クラブ（塩野博万会長＝塩野製作所社長）と日刊工業新聞社西東京支局は4月5日、東京バーディクラブ（東京都青梅市）で「第9回日刊工業新聞社杯ゴルフ大会」を開いた。初出場14人を含む10組37人が参加。晴天に恵まれたこともあり、ラウンドを楽しみながら親交を深めた。

結果は日本ガーター（東京都青梅市）の久保進社長（写真右）がネット70・0、グロス100で優勝。久保社長は「大たたきのホールが多く、ブービーにならなければと心配していた。ハンデに恵まれたが、まさか優勝できるとは思わなかった」と満面の笑み。2位には住吉プレシジョン（東京都調布市）の住吉智実社長、3位には鬼塚硝子（東京都青梅市）の鬼塚好弘社長が入賞した。またベストグロス賞は中嶋鍍金（東京都昭島市）の中嶋規夫社長がグロス78で受賞した。

秋山氏が優勝

九州・山口産業人クラブがゴルフ大会

九州・山口産業人クラブ（花田寛会長＝キューヘン社長）は4月28日、大宰府ゴルフ倶楽部（福岡県太宰府市）で「春季ゴルフ大会＝写真」を開催した。競技はダブルペリア方式で、秋山憲一郎福岡県中小企業振興センター専務理事がグロス97、ネット74・2で優勝した。ゴールデンウイークの最中、15人が参加した。当日は雨の予報だったが、参加者の願いが通じたのか時折ぽつりと降る程度で、風もなく、まずまずの条件となった。

表彰式で秋山専務理事は「まさか優勝するとは思わなかった」と喜んだ。準優勝はネット75・8だった井上信之正興電機製作所相談役で、グロス89とベスグロも獲得した。3位は佐藤誠司八雲製作所副社長が獲得した。

伝統あるコースに苦戦した参加者も少なくなかったが、懇親会ではゴルフ談議に花が咲いた。花田会長が「秋にまたやりましょう」と締めくくり、和気あいあいと一日を終えた。

産学連携・成功事例テーマに講演会開く

掛川産業人クラブ

掛川産業人クラブ（相良貴史会長＝相良製作所社長）は4月11日、掛川グランドホテル（静岡県掛川市）で「2014年度定時総会＆講演会」を開いた（写真）。13人の会員が出席し、14年度予算や活動内容などについて審議し、承認された。その後、松井三郎掛川市長、荒木信幸静岡理工科大学名誉学長があいさつ。野口博静岡理工科大学長、木村雅和静岡大学副学長が「我校の産学連携体制や成功事例」をテーマに講演した。

野口学長は理科離れに歯止めをかけるため、前任の千葉大学で中学生向けホームページ「未来を創る工学部」を開設するといった活動に取り組んでいる。講演では「日本は研究は得意だが売る力が弱い」とした上で、「産業人クラブの会員企業としっかりと連携していきたい」と強調した。

一方、木村副学長は「静岡大は応用光学の分野では世界水準の研究をしている」とアピールし、「こうした先端研究の成果を応用した大学発ベンチャー企業は現在17社ある。中には農業分野に進出した企業もある」と実績を紹介した。

講演後、相良会長（写真）が「14年は設立5年目で、若手経営者が当クラブの中心。若さを前面に押し出して活動を盛り上げたい」と意気込んだ。懇親会では熱心に情報交換をする姿が見られた。

新入会員

茨城産業人クラブ

▽**内藤　学氏**　水戸ヤクルト販売社長（茨城県水戸市谷津町1の35、029・251・8960、飲料等販売業）

▽**小山田　久人氏**　常磐警備保障社長（茨城県水戸市渡里町3266の1、029・221・5585、警備業）